

「第12回 ARRN 運営会議」「第14回 ARRN 国際フォーラム」運営報告（8月・マレーシア）

自然環境グループ 研究員 内藤 太輔

1. はじめに

2017年8月17日（木）、アジア河川・流域再生ネットワーク（以下、ARRN）の「第14回 ARRN 国際フォーラム」及び「第12回 ARRN 運営会議」を、第37回国際水理環境学会国際会議（IAHR World Congress）に合わせてマレーシアのクアラルンプールにて開催致しました。

表 開催概要

開催日：2017年8月17日（木）
開催場所：Putra World Trade Centre (PWTC), クアラルンプール, マレーシア
主催：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
■第14回 ARRN 国際フォーラム (9:30 - 13:00)
テーマ：Function of Governance to River Restoration under the Climate Change
プログラム：
①開会挨拶・来賓挨拶
②研究発表 計7発表
③パネルディスカッション
<コーディネーター>
Suk Hwan Jang (ARRN 会長)
<パネリスト>
Jin Chul JOO (韓国・Hanbat National Univ.)
Xiaosong WANG (中国・IWHR)
山田正 (中央大学)
<コメンテーター>
Sung Uk CHOI (韓国・Yonsei Univ.)
Jinyong ZHAO (中国・IWHR)
福田勝之 (国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)
④閉会挨拶
■第12回 ARRN 運営会議 (16:30 - 18:30)
プログラム：
①開会挨拶
②2016年の活動報告
③新 ARRN 会長の選出、挨拶
④審議
⑤テヘランの河川再生について (発表)

2. 第14回 ARRN 国際フォーラム

今回のフォーラムでは「気候変動下における河川再生のためのガバナンス」をテーマに、中国、韓国、日本の各国から計7件の研究発表があり、その後、パネルディスカッションが行われました。

研究発表の内容は、湖の水質対策、干ばつの予測モデル、植生管理、河川管理の技術、実践に関する報告など多岐に渡りました。パネルディスカッションでは、パネリスト3名、コメンテーター3名から、研究発表内容を踏まえ、気候変動下にお

ける研究成果の活用や取り組みの進め方についてそれぞれコメントがありました。



写真 ARRN 国際フォーラムの様子

3. 第12回 ARRN 運営会議

ARRN の Suk Hwan Jang 会長の開会挨拶に続き、CRRN (中国)、KRRN (韓国)、JRRN (日本) の2016年の活動報告が順番に行われました。

その後、新 ARRN 会長として金尾健司・(公財)リバーフロント研究所代表理事が選出され、同時に ARRN 事務局が KRRN から JRRN に移管されました。

本会議の審議では、アジア諸国からの ARRN 参加要請を背景とする今後の ARRN のネットワーク拡大について、また情報委員会等の活用や e-mail、IP 電話を使った ARRN メンバー間での密な情報交換など、ARRN 活動を活性化する体制、仕組み作りについて議論が交わされました。

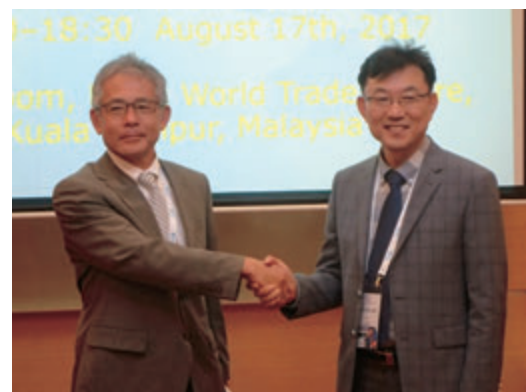


写真 ARRN 会長交代の様子

(左 金尾新会長、右 Jang 前会長)

※ JRRN/ARRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。